

新しい中野をつくる10か年計画（素案）に係る地域意見交換会等の主な質問・意見

領域 ．持続可能な活力あるまちづくり

- 1 産業と人々の活力がみなぎるまち

【活気とにぎわいあふれる中野の顔づくり】

番号	質問・意見	回答
1	警察大学校跡地には、ぜひ防災公園を実現させてほしい。	警察大学校跡地には1.5haの防災公園を整備するほか、周辺の公開空地とあわせ3～4haのオープンスペースを確保する考えである。
2	警察大学校跡地にみどりの公園を実現させてほしかった。戦略2では「みどりを増やしみどりをつなぐ」と言っているのに、矛盾している。	戦略1にあるとおり、防災空間を含むオープンスペースを確保するほか、みどりのネットワークを形作っていく考えである。
3	警察大学校跡地の整備にあたっては、現存している木を切るように聞いている。今ある緑をどう守るかの視点がない。	警察大学校跡地は、今あるみどりを、基本的に残す方向である。必要に応じて他に移すこともあるが、全体としては増やしていきたい。
4	警察大学校跡地には、自然を残して、防災にも機能するようにしてほしい。	警察大学校跡地は持続可能な中野を実現するための中心として位置づけていきたい。現在広域避難場所に指定されているので、その機能についても確保し、防災公園を整備する考えである。
5	警察大学校跡地の中にプロペラ型の風力発電施設を設ける計画はあるのか。	プロペラ型の発電装置は音がうるさいので難しい。グリーン電力証書のようなものを考えていきたい。
6	警察大学校跡地のまちづくりについて、区民にわかりやすい工程表を示すべき。	警察大学校跡地は、区が用地をすべて買ってまちづくりを行うのではなく、民間の開発者による手法を考えている。このため、詳細なスケジュールは前もって示すことはできない。
7	戦略1で、新産業や大学とあるが、どういうイメージなのか。	大学の持っている研究機能に注目して、それとまちの産業が連携して発展していけたらよいと考えている。新産業は、IT・コンテンツ・環境など、都市型産業を示している。コミュニティビジネスも振興したい。

8	中野駅周辺まちづくりが一番の問題であると思う。本当にできるのか。	警察大学校跡地については杉並区、都と一緒に財務省へ要望を出してきた。具体的に動かす働きかけをしていく。絵に描いたもちにはできない。もう少し時間をいただきたい。
9	中野駅には駅ビルを作ってまちの活性化につなげるべき。	JRと協議しながら、南北・東西からアクセスできる回遊性を確保していけるようにしたい。
10	中野駅周辺まちづくりのポイントは、中野駅をどうするかであると思う。駅舎が変われば、店も商店街も変わる。色々な意見があると思うが、中野区とJRによるまちづくりを早く進めてほしい。	中野駅舎、ガード下、南北動線を何とかしたい。駅舎の改築の多くは、まちづくりの中で進められている。区長もJR本社へ出向き、直接、話しをしてきたところだ。JR、東京メトロが集まり、駅をどうするかの協議の場もできた。国土交通省や区商連なども関心が高い今、粘り強く交渉していきたい。
11	中野駅周辺になぜ中心市街地活性化法の適用をしないのか。大都市・新宿にどう立ち向かおうというのか。	中野駅周辺では、地権者だけでなく、地元に住む人々を中心にまちづくりについて協議を進めていく考えである。中心市街地活性化法については、直ちに適用するのは難しいと考えているが、引き続き検討したい。
12	中野駅周辺の整備に関することが多く記述されているが、他の地域(特に南部)に関してどのように考えているのか。	計画では地域的なことは特に描いていない地域もある。南中野地域では、防災まちづくりの観点から海洋研の跡地の利用も課題になっており、10年間の中で方向づけだけはしていきたい。みなさんの関心の高い問題として南部区民ホール用地の利用があるが、南中野地域センターの今後のあり方を踏まえ方向性を出していく。
13	中野駅南口再開発を、平成7年当時の計画のまま実施すべきではない。みどりがなくなってしまう。環境に配慮してもらいたい。	5月に中野駅周辺まちづくり計画をまとめた。これに沿って、地区のまちづくりについて、地域のみなさんのご意見を聴きながら検討を進めていく。限定的な関係者だけでまちづくりが進まないよう、区としても意を用いていきたい。
14	中野駅南口再開発では、会社の横に新たな道路をつくるというが、みどりも破壊されるし、道路によって新たな問題も出てくる。	中野二丁目のまちづくりは、地域の声を反映できるよう、区としてもしっかり取り組みたい。

【産業再生のしかけづくり】

番号	質問・意見	回答
1	IT・コンテンツ産業など都市型産業の誘致とあるが、中野にはもともと基盤がなく、誘致はむずかしいのではないかと。目途はあるのか。	中野区、杉並区、三鷹市など東京西部地域は、IT・コンテンツ産業の立地も多く、可能性が高いといわれている。警察大学校跡地のようにまとまった土地があるところは他になく、産業の立地ということの基本をもってまちづくりを進めることが重要と考えている。
2	商店街の空き店舗活用で、事業者を募集していたようだが、どういう状況なのか。	毎年2回募集をしており、今年で3年目になる。最近が高齢者ケア事業所や特色ある食品製造業などの応募が多い。3年を契機に、効果を検証して、内容を見直したいと考えている。

【拠点まちづくりの推進】

番号	質問・意見	回答
1	東中野駅前では、超高層ビルのマンションができ、その中に大型店舗もできる。地元商店街はどうなるのか。	大型店舗はマイナスばかりでなく、集客性も生む。区外の成功例を参考に、大型店舗を補完できる工夫をして、状況をプラスに生かすことを考えたい。
2	東中野駅前広場整備の具体的な内容はどのようなものか。軌道上空は、きちんと埋めてもらわないと意味がない。	西側に、環6工事で設置した仮設構台を転用した形で広場を整備する。ステップ1では、各種補助手続のほか、昨年からJRと協議をしている軌道上空活用も含めて調整をしていく。上空活用はJRと協力して人工地盤を張り歩行者通路を確保する考えである。

【利用しやすい交通環境の推進】

番号	質問・意見	回答
1	野方駅北口の開設がステップ3にあるが、これでは5～6年後ということになる。やろうと思えば、もっと早くできるのではないかと。	野方駅北口については、4～5年後に開設できるよう、取り組んでいきたい。
2	西武新宿線の立体交差化は、輸送力増強につながらないし、区は周辺の街路計画もまとめていないので、実現しないのではないかと。運輸政策審議会答申によると、西武新宿線の立体化は10年以内には実現しない。都の提案のように、新井薬師・沼袋間の立体化を実現して渋滞解消をめざすのが現実的ではないかと。	かつての急行線の地下化計画は、確かに輸送力増強のための計画だったが、今、区は、まちづくりの視点から連続立体交差化を求めている。西武線各駅のまちづくりについて地域で勉強会を重ね、都市計画も含めたまちづくりの計画をまとめていく。

3	西武新宿線の立体交差化は30年先のこと。中野通りの渋滞をなくすには、区でお金をかけて立体化するしかない。区の渋滞率を指標として示すべきである。	10年間で西武新宿線の立体化を進めていくことをめざしているが、事業のスパンとしては20年と想定している。
4	西武新宿線の立体交差化の計画は、防災にも役立てる内容の計画になると聞いているが。	沿線のまちづくりについて総合的に検討していく。
5	もみじやま通りは、都市計画決定がまだ生きてると聞いているが、見直せないのか。	都市計画道路は、全体を見て決定をしたものであり、平成16年3月には優先して整備する路線を定めた。
6	都市計画道路について、実現できるだけの見直しはあるのか。	都市計画道路のうち、都所管分については早期整備を求めるとともに、区所管分については、もみじやま通りの整備着手を検討している。

【多様で良質な住宅の誘導・確保】

番号	質問・意見	回答
1	大和町は単身向けアパートが多いので、未婚の単身者住み、少子化が進んでいる。子育てができる住宅の整備を推進してほしい。	未婚者の増加や少子化と住宅問題が直接関係するかは定かではないが、一つの要素にはなっていると思う。木造住宅密集地域での防災上の問題もある。規制緩和などの手法で有効な土地利用を促し、ファミリー層の住環境整備を進めたい。
2	子育て推進といっても、区内の住宅は家賃が高く家族で住めない。	領域の中で「多様で良質な住宅の誘導・確保」の取り組みを示している。

- 2 環境に配慮する区民生活が根づくまち

【省エネルギーに取り組むまちづくり】

番号	質問・意見	回答
1	戦略2の名称は、「生活環境整備戦略」とすべきではないか。生活基盤が整備されてはじめて温暖化防止が可能になるはず。	地球温暖化防止は急務の課題。区民生活全般に関係するので、取り組み内容は身近なことになるが、中心軸は地球温暖化防止である。
2	戦略2「地球温暖化防止戦略」展開1から描かれている区民ファンドについて、具体的に説明してほしい。	太陽光や風力発電の推進を市街地で推進していくのは難しいため、出資して地方で発電組織を作り地方電力会社に売って、市街地に還元していく仕組みである。海外では仕組み等が違うため基本的に国内が対象。

【ごみの発生抑制と資源化の推進】

番号	質問・意見	回答
1	古紙の行政回収の廃止とは何か。	古紙を行政が回収するのではなく、区民のみなさんに協力していただき、集団回収に移行してもらおうということである。
2	古紙の行政回収をやめるとのことだが、町会や自治会、事業者に回収させるということか。	現在、古紙の回収は、新聞販売店などの業者による回収、町会・自治会等による集団回収、区による行政回収を行っている。区による回収が最も経費がかかっている。集団回収には報奨金を支給しているが、集団回収をより一層進め、一定程度以上の成果が上がったところで、地域の方々と協議しながら、行政回収を廃止したい。古紙の行政回収に要していた経費を行政の関わりが必要な回収、例えば、びん・缶の回収などに充てていきたい。
3	ごみのリサイクルは町会を主体に考えていると思うが、古紙の値段が下がるなど状況の変化があれば、町会も止めてしまうのではないか。	リサイクルは町会を中心に組み立てられており、町会のみなさんの力に期待している。必要な支援も考えている。
4	びん缶を分別回収すると単価の高いアルミ缶だけが持っていかれてしまう。	区でも条例をつくるなどしているが、引き続き努力したい。
5	区民だけでなく、事業者にも、ごみを出さない製品を作るよう働きかけて欲しい。	事業者にも働きかけている。環境に配慮した色々な取り組みを行っている業者もある。
6	戦略2のごみの発生抑制で、ペットボトルの回収拠点の拡大とあるが、中野から流れを変えていこうというのであれば、回収すればよいというものではなく、ペットボトルの使用そのものを減らすよう専門家も入れて検討すべきではないか。	リターナブルピンの活用が一番よいと思うが、現状ではペットボトルの使用が著しく伸びており、現実を見据えた対応が必要である。ペットボトルのリサイクルは利用価値が高く、効率的な回収が必要と考えている。
7	中野区でもペットボトルの行政回収ができないか。	中野区では効率性を考え店頭回収を基本にしている。
8	ごみの発生抑制が最重要と思うが、どうこれを進めるかの取り組みが手薄い。家庭ごみを有料化するとあるが、有料化の前に区が行うべきことがあるのではないか。また、発生抑制に向けて事業者が取り組むべきことを、もっと打ち出すべきと思う。	ごみの発生抑制は、重要な課題と考えており、4つの戦略の内の「地球温暖化防止戦略」の中でも取り組みの一つとしても挙げている。区民一人ひとりの生活スタイルに因るところが大きいと、難しい課題ではあるが、効果的な情報提供や環境学習などを積極的に進めたい。家庭ごみの有料化も、有効な手段と考えているが、様々な角度から検討した上で具体的な方法を考えていきたい。

9	家庭ごみの有料化はということか。	ごみの排出量抑制の取り組みのひとつである。23区の中でも調整が必要であるが、今回提案させていただいた。ごみの資源化とあわせて取り組んでいきたい。
10	家庭ごみの有料化は大賛成で、ぜひ実現して欲しい。具体的にはいつをめざしているのか。	現在は、ステップ3での実施を考えている。区が行うが、23区で調整したほうがよい事項もある。また、プラスチックの回収など、地域間で差がないようにして実施する必要がある。
11	町会としてごみの減量に取り組んでいるが、ごみの戸別収集が増えていることに不公平感がある。どう考えているのか。	戸別収集は増えており、戸建住宅が増えている所が多い。ごみの回収は行わなければならないものであり、やむを得ず実施している。

【身近なみどりの拡充】

番号	質問・意見	回答
1	地区計画を勉強し、生産緑地を残したいと考えているが、高齢化が進み、維持できづらくなっている。何とかならないか。	生産緑地は、税の優遇制度があるので、かなり厳しい条件がつけられる。営農継続ができない場合は存続はむずかしいが、法の枠組みの中で区として何ができるのか検討したい。
2	昨年、区立二中の屋上緑化を見たが立派なものだった。ずいぶんお金がかかっているのではないか。しかし、なすとトマトと一緒に植えてあるなど、根本的な間違いをしている。	屋上緑化などの環境対策はお金がかかる。できる範囲でやれることをやって行きたい。利用の仕方については勉強していく必要がある。
3	保護樹林をやむを得ず切ってしまう人もいる。樹林を守る方策を考えて欲しい。	保護樹林に対する区の補助はわずかであるが、今年度から台風等での倒木の処理費は区の保険で対応できるようにした。

- 3 安全で快適な都市基盤を着実に築くまち

【安心して住み続けられるまちづくり】

番号	質問・意見	回答
1	住民の安心のためには、防災や都市計画(まちづくり)が大切ではないか。	基本構想の中でも、防災やまちづくりは大きな課題。素案の戦略1や領域では、防災まちづくりについて示しているほか、ソフト面での取り組みも記述している。

2	国も都も災害に強いまちづくりを進めているが、中野区は道路も狭く緑被率も低い。長い期間をかけて取り組んでいるが、少しも進んでいない。区民は期待しているがどう取り組んでいくのか。	緑被率については、計画の中で目標値を示し向上を図っていく。狭あい道路については以前から取り組んでいるが、根本的な解決策がない。区民の間で不公平感が出ないように検討していきたい。
3	目玉はまちの活性化だと思うが、警察大学校跡地や中野駅周辺は、弥生の地域にとっては遠いという印象がある。この地域は住環境が悪い。暮らしやすいまちの実現をまずめざして欲しい。	(要望)

【まちの防災機能の強化】

番号	質問・意見	回答
1	中野区は防災面において危険度が高いまちなのに、4つの戦略に防災という言葉が1つもないのは、いかがなものか。	4つの戦略は、区政全体をリードしていくものとして設けたものである。防災については戦略としては挙げていないが、重要な課題として認識しており、第3章に記述があるが、まちづくりのハード面と地域の防災力の向上などソフト面の取り組みを進めていく。
2	防災無線は聞きづらい。	建物への反射などにより、聞き取りにくい地域もある。地域防災無線のデジタル化を進める中で整備していく。
3	CTNの5チャンネルを利用して、災害時を想定した訓練放送をしたことがあるのか。	総合防災訓練の内容等は放映しているが、番組を使っての啓発活動は行っていない。大雨等の災害情報をCTNで放映することは準備中である。
4	今回の大雨被害を受け、国や都に対して妙正寺川の河川改修等を強力に要望して欲しい。	妙正寺川の河川改修は、部分的な改修にとどまり、調節池も同様である。環7地下河川への取水についても要望しているところである。今後とも引き続き取り組んでいく。
5	8月・9月と重大な水害が発生した。これを受け、10か年計画に何か取り組みを追加する考えはあるのか。	防災対策については、他でもご意見をいただいているので、改めて考えていく。
6	耐震化支援で、木造住宅32,000戸の戸別訪問を10年間で26,000戸実施するとあるが、震災対策上このことは緊急の課題であり、10年もかけて行うものではないか。	近々に対象となるすべての住宅を戸別訪問し、実態を把握したいと考えている。指標の目標値については、本案で修正する。

【道路・橋梁の安全性・快適性の向上】

番号	質問・意見	回答
1	住区協議会の福祉部会で、狭あい道路のことが問題になった。後退した部分に車を置いている家もある。すみ切りしても区が道路として整備していない所もある。すぐに道路として整備して欲しい。	後退した部分は道路にするものであり、指導をしているが、なかなか聞いてもらえない状況もある。区として再検討しなければならないと考えている。
2	狭あい道路の多い中野区にとって、4m未満の道路の拡幅は、重要な課題である。解決するには10年以上はかかる。こうした点についても、長期的な計画を示して欲しい。また、地震で住宅がつぶれたときは、4m以上の道路になるのか。	狭あい道路以外にも、10年以上の長期にわたる課題は沢山あり、ステップ4の段階には10年を超えた取り組みも含まれている。都市計画マスタープランにおいても、狭あい道路の拡幅は課題として掲げている。住宅を建替えるときには4m以上にしないといけない。災害復興計画の中で、街区のつくり方などまちづくりの面も含めて考えることが必要である。
3	戦略の中に「道路」については、1か所しか触れられていない。これでは道路整備の考え方も時期もかわからない。もっとわかりやすく示すべきだ。	戦略の中のステップでは主なものについてあげた。素案の第3章では、道路整備について考え方を示している。

【みどりのネットワークがあるまちづくり】

番号	質問・意見	回答
1	緑地率が6%に満たないというのは、違法であると何度も指摘している。目標値が5.7%というのは訂正すべきだ。	高い目標値を設定したいと思うが、見込みのない数値を掲げることはできない。一層の努力をしていきたい。違法ということはない。
2	狭小公園には人の姿が見えない。大きな公園は、さまざまな人が集っている。小さな公園も活用方法はあるはずなので、小さいから廃止するという考えはとらないでほしい。	公園の活用についても、さまざまな方法を検討して行きたい。

【だれもが利用しやすいユニバーサルデザインのまちづくり】

番号	質問・意見	回答
1	<p>駅のエスカレーターは車いすにとって危険。なるべくエレベーターをつくってほしい。</p>	<p>ご意見のような視点をもって、取り組んでいきたい。</p>
2	<p>国土交通省は、ユニバーサルデザインのため、駅で乗り換えのない「相互乗り入れ」や、小規模な「暮らしのみちゾーン」「トランジットモール」などの取り組みを推奨しているのに、区はこうしたことを進めていけないのか。</p>	<p>乗り入れについては、区から求めるには至っていないが、検討すべきと考えている。小規模なモデル地区をどう選ぶかは難しいところだが、可能性は検討したい。バリアフリー整備構想にあるように、まず優先度の高い地区から段差の解消などの取り組みを進めていこうというのが今の段階である。</p>
3	<p>昨年の秋から今年にかけて、高齢者バリアフリーの問題で地域内を歩いた。坂が多く道も狭く、消防車の入れない道も多い。本郷通りは歩道の段差も多い。12年前に同じような調査を実施し、都第三建設事務所や区に要望したが、あまり改善されていない。環6沿いには商店が少なく、買い物は本郷通りに行かなければならない。何とか住みよいまちにして欲しい。</p>	<p>本郷通りの歩道の切り下げは、一部で改善したが、今後も経常事業の中でできるだけ対応していきたい。</p>
4	<p>バリアフリー対策について記述されているが、区内の歩道は狭く、車椅子が車道を利用している状況で、どのように区は進めていくのか。車道を狭くして車椅子や人が通れる歩道を整備できないか。</p>	<p>車道の幅は法律で定められていること、交通量の計算により車線数も決められていることから、車道を縮めて歩道確保したいがその兼ね合いが難しい。</p>

領域 . 自立してともに成長する人づくり

- 1 子育て支援活動など、地域活動が広がるまち

【子どもの育ちを支える地域づくり】

番号	質問・意見	回答
1	子ども育成に関する組織を再編するとあるが、従来とは違う戦略で取り組まないと成果は上がらないと思う。具体的な連携体制を考えているのか。	子どもだけでなく家庭にも対応していかなければならないと考えている。子ども家庭支援センターの地域展開を考えており、4つの(仮称)地域子ども家庭支援センターと児童館、学校がネットワークを作り、時代にあった支援を行うとともに、子どもに関わる人も増やしていきたい。
2	地域での青少年育成活動は低下している。区の経費節減で団体への情報提供を止めてしまったことなど、これまでの積み上げを切ってしまったことも原因の一つと思う。	子どもや家庭の状況は、これからも変わるだろうし行政だけでは対応できない。今後とも地域の方と一緒に取り組んでいきたい。
3	少子化問題で、自分たちで何とかしなければと考え、自分の家で子育て支援を始めた。このような取り組みを知って欲しいし、支援もして欲しい。	地域の中でさまざまな子育て活動が行われていることは承知しており、さらに増えていくことを期待している。施設の再編で場の提供等も工夫していきたい。
4	小学生の遊び場が小学校に整備されるとのことだが、学校の統廃合を進めて行く中で、どのように検討しているのか。小学生以外は利用できなくなるのか。	地域でも少子化が進み、児童館利用や学校開放事業利用も減少している。子どもの集団遊び、異年齢交流などが地域の中で行われるのが理想であり、小学校に整備することで、今まで以上に、地域・学校・家庭を結びつけた事業を発展できる。学校の統廃合を踏まえて、地域や学校との関係も見ながら進めていく。中学生のボランティアを取り入れるなど小学校内で活動できる場面を工夫したい。
5	少子化対策が見えてこない。保育園の民営化や学童クラブ・児童館を小学校の中へ入れることでは、充実とはいえない。学校は学びの場であり、子どもが自由に過ごせない。今の児童館のままにすることはできないか。	少子化対策では、さまざまな分野が関連して子育てを支える必要があり、次世代育成支援行動計画を策定し、取り組みを示してきた。児童館や学校の校庭開放を利用する子どもが減っている中で、子どもの放課後の安全を守っていくためにも、児童館と学童クラブ、学校とが同じ場所にあることが効果的と考えている。これから話し合いながら進めていきたい。
6	学校が好きでない子どもにとって、放課後も学校施設の中にいるのはつらいのではないか。	子どもの居場所全体を考えると、集団で遊ぶ場は、広い小学校が適している。ただ、小学校だけでなく児童館も機能、規模、配置を検討しているが、そこでは子どもの悩み相談など、個別の対応も行っていく考えである。

7	児童館がなくなるという話があるが本当か。	児童館の配置については検討中だが、特色を持たせたり、中高生向けの機能を持たせたりする。放課後の居場所として学校の中にも展開していく。
8	児童館の機能を小学校に入れることについて、ステップ2、ステップ3で各2館となっているが、将来はすべて入れていくのか。	子どもに関わる地域、学校、児童館の連携を強化し、子どもが学校の中で地域の人と関わっていくことが必要と考えている。また、いくつかの拠点となる児童館は地域に作っていききたい。学童クラブも学校の中でと考えており、学校の再編を踏まえながら検討していきたい。
9	児童館についての存在価値が認められていない感じた。児童館が学校に吸収されてしまうのではないかと危惧している。	児童館は地域でしっかり機能を果たしてきたと認識している。しかし、来館児童が減っているのも事実である。地域全体で子育てをしていくためにも、子どものことがわかっている学校と連携していくことが大切である。
10	児童館で乳幼児親子の交流をしているが、小学校に児童館が配置されるとできなくなってしまう。今の環境で続けられるようにしてほしい。	乳幼児のための施設は、地域の中で工夫していきたい。児童館では午前中だけであるが、1日中居られたり異年齢との交流ができる場も必要と考えている。
11	中学生の居場所はどうか。	中高生の施設については、南北に1か所程度配置し、世代にあわせた活動ができる場を確保したい。
12	学童クラブは当初学校にあったが、のびのび遊べないということで、現在の姿になった。それなのにまた学校に戻すというのはいかがか。	時代状況も変わり、今では児童館の学童クラブより、学校にある学童クラブのほうが人気が高い。職員も配置し、子どもたちが安心してすごせる環境づくりに努めたい。
13	戦略3のステップの中にある「地域・学校・家庭が協働して」という表現は、まさにそのとおり。学童クラブの児童が放課後も学校で過ごせるようになるのはよいことだが、学校も了解しているのか。	学校の中に児童館の機能を導入して、学童クラブだけでなく一般の子どもと一緒に遊びや地域の子育て活動なども学校で展開できないかと、教育委員会と検討している。
14	学童クラブに入れないうちに、引越しを考えている人もいる。働き続けることと子育ての両立ができるよう充実すべきだ。	現在、一部の学童クラブでは待機児が出る状況にあるが、今後はこうしてたことが解消できるよう検討していきたい。

15	参考資料の「実現へのステップ」を見ると、(仮称)総合公共サービスセンターの設立はステップ3である。そんなに遅くてよいのか。	(仮称)総合公共サービスセンターの機能としては、地域の中の相談支援、子育ての相談支援やネットワークづくりを想定している。(仮称)総合公共サービスセンターの施設そのものは、統廃合した学校の利用を考えているため、ステップ3となるが、今ある保健福祉センターの機能を強化して、来年からできることは行い、施設ができ次第、移設する予定である。
----	---	---

【健やかに子どもを育む家庭づくり】

番号	質問・意見	回答
1	素案における成果指標には、空欄箇所がある。どうしてか。	次世代育成支援行動計画の指標として現在調査中である。計画案においては、実績値と目標値を示す。
2	豊島区など3区で「ノーテレビデー」を実施しているようだ。家庭に立ち入る話なので、難しい面もあると思うが、家庭でのコミュニケーションを増やすために、月1回でもいいからやったらどうか。	子どもの教育は、乳幼児期の育て方が原点であり、何よりコミュニケーションが不可欠だと考えている。親育てを支援することも必要だ。全区的に取り組むというよりは地域の育成団体などを通じて、提起してみたい。

【特別な支援を必要とする子どもと家庭への支援の強化】

番号	質問・意見	回答
1	児童館を小学校の中に入れて、いじめや虐待を受けている子どもが、同じ学校で遊んだりすることはできない。学校内でつまづいた子どもは居場所がなくなってしまう。いろいろな受け皿が必要ではないか。	今ある児童館を全て廃止するわけではなく、特色ある子ども施設なども配置していく。虐待の問題については、子ども家庭支援センターを地域展開するなど、課題のある子どもや家庭について地域と一緒に守っていく取り組みをしていきたい。
2	虐待の早期発見、未然防止の取り組みが書かれており、活動をしている者としてほっとしている。問題が起きるのは夜が多く、区役所等への連絡が取れない。夜間の対応も考えて欲しい。	区として子ども家庭支援センターで対応しているが、児童相談所など関係機関と十分調整しながら対応していく。夜間や休日の対応についても十分考えていきたい。
3	虐待ゼロの看板を掲げているが、虐待をゼロにすることは、今後新たな課題も出てくるだろうし、無理であると思う。	このような意気込みで取り組まなければならないと思っている。

【さまざまなサービスで支えられる子育て支援の推進】

番号	質問・意見	回答
1	保育園などの民営化はやめてほしい。	子育てには行政も民間も関わっている。行政には、民間が行うサービスの質の確保や評価、利用者の権利擁護などを担っていくことが求められている。
2	保育園の民営化について詳しく触れられていない。民営化というがどう進めるのか。	民営化の考え方については、第3章に示している。現在までに7園実施しているが、産休明け保育や延長保育などサービスの拡充を行った。
3	保育園の民営化などについては、雇用問題が生じる、従来やってきた事業が継承されない、民営化しない園の職員の平均年齢が上がるなどのデメリットがある。デメリットやその対応についても、素案に示すべきだ。	雇用問題が生じるとは考えていない。
4	子育て支援が必要なのに、区は具体的なサービスを十分には用意していない。子育てについては、きれい事だけを書くのではなく、地域の実情を見ながら決めていって欲しい。	具体的なサービスについては、保護者のニーズなどを踏まえてさまざまに実施している。今後とも需要を把握しながら工夫して行きたい。
5	子どもを預かってもらうところが無いと外出もできず、育児ノイローゼになってしまう。安心して子育てをしていける環境をぜひ整えて欲しい。	子育て家庭が孤立せずに子育てができるよう、社会全体で支えていくことが必要と考えている。保護者のリフレッシュも一時保育の要件にして実施しているが、今後とも支援策を工夫していく。

【質の高い幼児教育・保育の確保の実施】

番号	質問・意見	回答
1	区立幼稚園をなくすという計画はやめてほしい。	今教育委員会の中で区立幼稚園のあり方を検討している。区立のよさも認識しているが、中野は私立中心に幼稚園を整備してきた経緯もある。
2	区立幼稚園はなぜ民営化しようとするのか。	幼稚園、保育園、私立、区立の分け隔てなくすべての子どもが同じサービスを受けられることが大切である。その方法を考えて行きたい。
3	私立幼稚園では障害児を受け入れてもらえなかったという話も聞く。地域と一緒に支える幼稚園は区立でないといけないのではないか。	中野の幼稚園は私立を中心に進めてきた。私立が不足する地域を区立が補ってきた。今後も私立を基本にする方針であり、障害児の対応もできるように支援していく。

4	区立幼稚園は、3歳児の応募は定員を超えており、役割を終えたとの一言で片付けないで欲しい。幼保一元施設として民営化とあるが、民間では先生の質や障害児対応の面で心配である。	区立幼稚園は私立幼稚園を補完するために設置したが、私立幼稚園の中には廃園となっているところもある。幼保一元施設は国でその必要性をうたっており、区立幼稚園を一つの機会にしていきたい。先生の質については、資格があり研修も行っている。障害のある子どもについても対応を考えていきたい。
---	--	--

- 2 子どもから大人まで、地域の中で自分の力をのばせるまち

【だれもが等しく社会参加ができるまち】

番号	質問・意見	回答
1	DVシェルターの事を以前提案したが、具体案が示されていない。	DV問題に関しては、現在、女性会館などの窓口において対応している。シェルターについては、加害者から離れた場所が基本となるので、区を越えた広域的な対応が必要であり、設置数を増やすよう、23区として都へ要望している。

【多様な教育を受けられ、生きる力を育む学校づくり】

番号	質問・意見	回答
1	教育について、戦略3で聞く、話す、読む、書く力を高める教育の推進とあるが、中野から東京を変えるのであれば、30人学級にすべきである。少人数学級では学力が向上したという実績もある。	6月に策定した教育ビジョンの中で、人とふれあうコミュニケーション能力を高めることを重点としている。子ども読書活動の推進や発表する機会を増やす取り組みを考えている。学級人数は都道府県で決めることであるが、国の検討の動向に注目しているところである。
2	聞く、話す、読む、書く力を高める教育のステップ3とステップ4の記述が同じになっているが、どういうことか。	ステップ3とステップ4の表現が拡充という同じ表現になっているが、ステップ4は更に拡充するという趣旨である。表現については工夫していきたい。
3	学校の統廃合計画案が示されたが、大和小を若宮小へ統合しないでほしい。	大和小と若宮小は統廃合の対象になっているが、どちらに統合新校を設置するかは決まっていない。地域で議論していきたい。少子化や厳しい財政の面から、多少の不都合が出ることは理解いただきたい。
4	杉並では、区で教師を育てているとの事だが。	教員希望の学生に声をかけて指導力を養成し、養成した者を区立小学校の教員として採用するしくみの事だと思う。区で採用するには、財源が必要であり、中野区では慎重に対応したい。

5	小・中学校の一貫教育校のメリットとデメリット、財政的な裏づけはどうなっているのか。	都内の数校で試行されている。区教育委員会としてはその結果をみて、一貫校導入を決めていきたい。小・中学校の連携そのものは大事であり、相互交流ができるよう、現在の予算の範囲内で工夫しながらやっていく。
---	---	--

【地域に関かれ地域とともに子どもを育む学校づくり】

番号	質問・意見	回答
1	杉並では、学校運営協議会を設置し、地域が学校運営に関わる施策を進めると聞いている。中野区も後追いではなく、新しいことをやってほしい。	いわゆるコミュニティスクールのことだが、法律上は「できる規定」であり義務ではない。地域の何人かで学校を運営していくというものだが、中野区教育委員会では、まだ作る段階ではないと考えている。まずは地域の教育力を高めることが大事で、地域から自発的にやりたいという要望が出てきたときに検討したい。
2	子どものゆとりの時間がなくなってきている。芸術家が学校に入って教えるなど、総合的な学習の中で表現教育を充実させ、子どもの自己解放が必要であると思う。	言葉を中心としたコミュニケーション能力や情操教育など、生きていくうえでの基礎的な力を向上させることを重点的に取り組んでいきたい。提案の内容も、この中で生かされると考える。

【新しい自分や仲間と出会う学習・スポーツ活動の推進】

番号	質問・意見	回答
1	地域スポーツクラブについて、設立支援や拠点整備と書いてあるが、これはどういうことか。	ステップ1では、地域スポーツクラブの設立に向け、各スポーツ団体等と話し合いを進めていきたい。学校の跡を活用して地域スポーツクラブの拠点を整備していく中で、クラブを設立していきたいと考えている。

【利用しやすい図書館の運営】

番号	質問・意見	回答
1	本町図書館がどうなるのか心配している。図書館の数はどうなるのか。学校図書館と地域図書館の連携とあるが、両者は別なので、地域図書館は減らさないで欲しい。	学校図書館も地域の重要な資源であり、子ども関連の図書を充実するなど地域住民が利用できるようにしていきたい。図書館が必ず8館必要とは考えていないが、素案では数までは言及していない。

2	学校の中に地域住民が入ることは、安全対策上、現状ではむずかしい。学校図書館を活用すれば地域図書館は要らないとは考えないで欲しい。	学校の安全対策は重要である。一方、学校に地域の人が気軽に入っていける環境を整え、地域の中で子どもが育っていくことも大切である。学校の安全と地域に開かれた学校づくりは、両立が可能であるとする。
3	10か年計画においては、図書館はどうなっているのか。	地域図書館は現在8館あるが、老朽化している。教育委員会では、ゆとりのある空間として、図書館を大きくしてはどうかという議論をしてきた。一方、財政面から見ると、総数は減らさざるを得ないとも思っている。当面は、図書館を一部改築と蔵書数を増やすことに努め、レベルアップしていきたい。

【文化・芸術のまちづくりの推進】

番号	質問・意見	回答
1	文化・芸術の育成に力を入れることは賛成だ。環境整備に努めてほしい。	楽器などの練習場所がないということは認識している。また、“お笑い”も中野文化だと思っている。いずれにしても育成支援を進めていきたい。
2	中野には文化がないという声をよく聞く。書かれていることが実現すればとても良いと思う。他の区では、学校の空き教室を劇団等に練習場所として貸している。地域とのコミュニケーションもとれ、ボランティア公演もでき、商業演劇の人にも使わせれば、客も来て産業にもつながる。ぜひ検討して欲しい。	現在、中野の文化芸術振興のための懇談会を設置し、検討しているところである。廃止となる学校のいくつかは、稽古場など文化芸術のために使うことを考えている。
3	高齢者と同じくらい子どもたちに目を向けて欲しい。学校の再編で使わなくなった施設を、子育て支援や若手芸術家の稽古場等で開放して欲しい。	廃止する学校の利用について、子育て支援や文化芸術活動の支援の視点も含めて検討しているところである。
4	文化・芸術は、マタニティブルーの母にとっても役に立つ。10年の中で、ぜひ中野の芸術祭を実現したい。	文化・芸術振興のためのプログラムを検討中である。芸術祭の提案については、策定の中で考えていきたい。

領域 . 支えあい安心して暮らせるまち

- 1 人々が自分の健康や暮らしを守るために努力しているまち

【健康自己管理習慣の普及支援】

番号	質問・意見	回答
1	健康診断を受けても、その後の健康づくりは自分では行えないのではないか。	健診後、どうすればより健康になれるのかを検討・実践していくことは大事と考える。戦略4では、ICカードの活用などにより区民健診の事後指導のしくみを整えることを示している。

【健康づくりを支える環境の整備】

番号	質問・意見	回答
1	他人の健康に害を与える路上喫煙の防止について、素案には載っていない。どういう取り組みをするのか。	歩行喫煙防止条例により、中野駅周辺地区は路上喫煙を禁止した。健康のためというより、マナーを守って安心して過ごせるまちにしようという観点から呼びかけているもので、素案には盛り込まなかった。

【健康寿命を延ばす介護予防の推進】

番号	質問・意見	回答
1	戦略4で、リハビリの取り組みは入れないのか。	病後の回復のためのリハビリのほか、健康づくりのためのリハビリもある。介護予防の取り組みの中で、取り入れていきたい。
2	活動的な85歳というのはどういうことか。	介護保険の給付を受けていない状態。加えて地域活動やボランティア、趣味の活動などを行っている状態である。

【障害者の就労機会の拡大】

番号	質問・意見	回答
1	素案での障害者の雇用促進の取り組みは、絵に描いた餅である。スキルや仕事も他区で得ている。現状をふまえていないように感じる。	障害者雇用の厳しい現状については認識している。障害者福祉事業団での仕事斡旋から就労に結びつくケースも増えてきている。法改正により障害者雇用による雇用主のメリットも増えてきている。区としては力を入れていきたい。
2	障害者雇用については行政ではなく、今後はNPOを活用した雇用創出を推進していかないと障害者就労に結びつかない。障害者も就労して納税する環境づくりをお願いしたい。	今後は企業だけでなく、NPOでの取り組みも進んでいく。今後制定される障害者自立支援法でも、障害が重くても就労等による収入を得るということが大切であるという考え方だ。区としても法の趣旨を踏まえ努力して行きたい。

- 2 地域活動を中心に、ともに支えあうまち

【支えあいの風土の醸成】

番号	質問・意見	回答
1	「地域の保健福祉活動の推進調整」について説明してほしい。	支援が必要な人を地域で支えていこうという仕組みの一つである。介護保険制度の変更を受け、地域包括支援センターは今の在宅介護支援センターがレベルアップしたものになる。保健福祉センターがケアネットの中心組織となり、行政の核として地域の関係機関を結びつけて調整を行いながら、支えあい社会を作っていく仕組みである。
2	地域包括支援センターという中核的な施設はどのくらい出来るのか。「元気でねっと」が大変な状況にあることを考えると、地域の見守り支援ネットワークは本当に実現性があるものなのかどうか不安に思う。	地域包括支援センターについては、介護保険運営協議会での審議が必要なため、現在はまだ検討中である。区内を4つの日常生活圏域に分け、各圏域に2か所ずつ整備していきたい。「元気でねっと」が機能していくためにも地域包括支援センターの整備が必要である。
3	在宅介護支援センターと地域包括支援センターはどう違うのか。	在宅介護支援センターは高齢者の相談窓口であり、ケアプランをつくる居宅介護支援事業所と併設になっている。今回の法改正で、相談機能や地域のネットワーク支援機能を充実させ、介護予防を推進するために新たに「地域包括支援センター」の設置が求められた。職種や運営主体にも規定が設けられており、在宅介護支援センターを廃止して地域包括支援センターを区内に8か所程度設置する予定である。
4	地域包括支援センターに介護をしている人が出かけていくのは難しい。センターから職員が出向くようにできないか。	きめ細かい介護体制を築くには財源が必要だが、地域包括支援センターは介護保険の3%しか財源を充てられないことになっている。限られたお金でいかに効率的に運営できるかが重要になる。
5	「元気でねっと」などを活用して、地域包括支援センターでは賄えない要介護高齢者の見守りを行うべきではないか。	地域の中で見守りのネットワークが大切であると考えているので、何らかの形で活動を支援していきたい。

6	「元気でねっと」は、区が作り放しで何も支援しないという声を聞いた。中野区は、高齢者の健康サークルなど、自力で元気にがんばっている高齢者をもっと支援すべきである。	介護予防が重要であり、区民それぞれの健康づくりへの工夫を支援すべきだというのはご指摘のとおりである。これから、そうした支援の事業展開を考えたい。
7	「元気でねっと」では、協力会員が、訪問して相手が倒れていたときなどにどういう対応をとったらいいのかわからない。区がきちんと対応するという姿勢がないと、地域が困ることになる。	今後の行政は、地域ネットワークのバックアップの仕組みを作り、取り組んでいく必要がある。職員の意識改革をすすめ、職員の動き方を組み立て直していく。
8	「元気でねっと」の対象者は全区民としたらどうか。	(意見)
9	施策の方向「支えあい風土の醸成」についての取り組みが、複数の部署が担当となっているが、横のつながりをきちんととって、町会から出された要望についても、区の担当部署に確実に伝わるようにしないと、取り組みは成功しないと思う。縦割りになって全体をコーディネートするところがないと、成果は上がらないと思う。	(意見)
10	高齢者の地域での支えあいは、既存の団体は高齢化が進み、このような団体に頼っていたのでは成り立たなくなっている。若い世代の掘り起こしは考えているのか。	若い世代の掘り起こしは本当に大事なことであり、地域の若い力、NPOや地域団体の力が生かされていくことが必要である。また、団塊の世代の人たちの力も大事と認識している。
11	領域の「支えあいの風土の醸成」の成果指標に、「ひとり暮らしで孤立を感じていない区民の割合」と「保健福祉関係NPO法人(主な事務所が区内)の新規立上げ件数」を挙げている。前者は成果指標として馴染まない。後者はNPO法人のみの件数では対象が狭い。	(意見)

- 3 安心した暮らしが保障されるまち

【権利擁護と地域ケアの連携体制の確立】

番号	質問・意見	回答
1	(仮称)総合公共サービスセンターとはどのような施設なのか。	保健福祉や子育てについての相談支援、ネットワークづくり、サービス提供などを身近な地域で受けられるようにするもので、再編後の学校を活用して4か所整備していきたい。

2	現在ある保健福祉センター、在宅介護支援センターの他に、(仮称)総合公共サービスセンター、地域包括支援センターの整備が盛り込まれているが、これらセンターの関係を教えて欲しい。	保健福祉センターは現在4か所あるが、第1ステップで地域の活動や民生委員などと緊密に連携していけるように機能を強化し、第3ステップで1か所、(仮称)総合公共サービスセンターとして整備していきたい。地域包括支援センターは8か所整備する予定で、これにより、在宅介護支援センターは廃止となる予定である。
3	介護予防の仕事をしているが、鍋横地域には高齢者会館がなく、一番近い「やよいの園」にも歩いてはいけない。地域センターの集会室など、今ある施設を柔軟に利用することはできないのか。	すべての高齢者が歩いていけるとところに高齢者会館を作っていくことはむずかしい。介護予防事業での集会室の利用の件については、後日回答したい。

【心の健康支援】

番号	質問・意見	回答
1	うつ病に悩んでいる人が増えている。心の健康支援として計画の中に表現されたことは評価できる。有効な対策をたてて欲しい。	社会的にも課題となっており、きちんと対応していきたい。

【暮らしの衛生が守られるまちの推進】

番号	質問・意見	回答
1	ペットとの共生が求められている。ペット等を介する新型感染症への予防対策など、ペットを管理するような表現はいかがなものか。	ペット等を介する新型感染症は実際に発生しており、対応は必要と考えている。ペットと共存できる社会の実現をめざしていきたい。

【豊かで適正なサービス供給の促進】

番号	質問・意見	回答
1	精神障害者のグループホームにも、区として援助すべき。	精神障害者の地域生活を支援をしていく。

領域 . 区民が発想し、区民が選択する新しい自治

- 1 自治のしくみが効果的に機能し、さまざまな担い手によって多様なサービスが展開するまち

【区民の公益活動の推進】

番号	質問・意見	回答
1	戦略4の展開2において、「町会・自治会活動の推進・支援によって、いきいきした地域を築きます」とあるが、住区協議会が抜けている。「町会・自治会等」に訂正してほしい。	NPOや住区協議会の活動も当然、公益活動であると認識している。
2	「町会・自治会」という表現が多用されている。加入率が低いのに、なぜそれほど期待するのか。	町会・自治会は、地縁団体として、ごみリサイクルや地域福祉活動など、果たしている役割は大きい。新しい時代にふさわしい町会・自治会の発展について、区と一緒に模索していくべきと考える。
3	まちの活性化を考えるのなら、町会を充実させることも大事である。行政としても、町会への加入を促すような働きかけをする必要があるのではないか。	まちの活性化のためには、町会・自治会の活性化が重要であると認識している。区としても、ともに工夫していきたい。
4	素案の中に「町会・自治会」という表現が多いが、地域でどんな人々がどのように生活しているのかを、区は知らないのではないか。	地域で区民のみなさんと接する職員が大部分であり、その中で、防災・安全・環境・福祉などに町会・自治会が果たす役割が大きいことを実感している。加入数が減るなどの課題もあるが、今後も地域を支えていく役割は大きいと考える。
5	町会・自治会の組織率は低いところだと30%台のところもある。組織率を高め、地縁団体として活発な活動ができるよう支援してほしい。	自分がどこの町会に属するのか分からない区民も多い。町会の活動が認知されるような広報を行うなど、活動しやすい環境を作りたい。
6	町会・自治会活動の推進の支援とあるが、具体的にどのようなことなのか。	町会・自治会により多くの活動が行われているが、それに対する行政側の評価が今までなかった。区として、町会・自治会の公益性を評価し、一定の助成支援も必要と考える。
7	区民の公益活動の中で、「町会・自治会と区の協働による支えあい活動の推進」「町会・自治会活動の推進」とあるが、どの程度の内容を考えているのか。	地縁団体として唯一の存在である町会・自治会の役割は大きい。区は、町会・自治会の支えあい活動を協働で行っていくとともに、まちをよくしていく活動を支援していく。

8	<p>学生の参加を進める(学生下宿モデル)方法や、部分的なグループ参加によるネットワーク化(オリンピックモデル)などの展開によって、町会以外にも地域活動を広めていく方法があるのではないか。</p>	<p>区民やNPOがさまざまな形で行う助け合いを、「区民が行う公益活動の推進」という形で進めていきたい。そうしたネットワークのツールとして地域通貨も考えている。何でも町会にお願いするというのではなく、いろいろな方々が自分にできる形で支えていく地域をつくるのが大切だと思う。</p>
9	<p>鍋横地域センターを拠点として活動している区民団体をどれくらい知っているのか。活動の様子を見に来るなど、地域をもっと見て知って欲しい。</p>	<p>「オアシスなべよこ」の子育ての活動は承知しており、近々のうちに伺いたい。地域の中では、行政が考えている以上のものも発見することができ、今後も意見交換をしていきたい。</p>
10	<p>地域通貨の導入について。地域通貨のメリットなども含め、どう進めていくかを明らかに示してほしい。</p>	<p>地域通貨は、奉仕・感謝が具体的な形になり、地域社会全体が豊かになるものと考えている。今後、区民とともに考えていく機会を増やしていく。</p>
11	<p>地域通貨の導入が示されているが、具体的にはどういうことか。</p>	<p>地域通貨は、円などの法定通貨と異なり、一定の地域の中だけで通用する通貨のことである。ボランティアなどをした時にその通貨を受け取り、自らがサービスや手助けを受けるときに、その通貨を支払うという、感謝の循環のしくみである。全国の色々な地域で行われているが、行政主導でないところが成功している。区としては、導入の投げかけと導入の支援を側面から行っていきたい。</p>
12	<p>商店会に加入している。地域通貨は商店会とどう結び付けていくのか。</p>	<p>例えば、世田谷区の烏山商店街では、ごみ清掃や放置自転車の片付けをするとエコポイントがもらえる。そのエコポイントは、商店街のイベントで使えたり、買い物スタンプとの交換ができたりと、結果として商店街への集客力向上につながっている。中野区で導入する場合、共通商品券との関連性をどう持たせるかが問題となるが、色々なやり方が考えられると思う。まずは、小さな単位で始めて、少しずつ広げていくのがよいのではないだろうか。</p>
13	<p>各取り組みの内容が具体的に書かれていない。「地域通貨の導入支援」の検討状況・計画内容を聞きたい。</p>	<p>10年後の姿を実現する方向性を示す計画のため、個々の取り組みの検討段階はさまざまである。地域通貨の導入支援については区として、今後検討を進めていきたい。</p>

14	地域通貨はブームが去って、成功している例も聞かないが、区は何か目算があるのか。	福祉、まちづくり、環境など、人と人とのつながりをつくる手段として地域通貨の導入を考えている。
15	地域ニュースは、職員が関わっているからこそ掲載内容の中立性が保たれている。今後、職員が関わらず地域の人だけで作っていくのは難しいのではないか。	地域センターから(仮称)区民活動センターへの転換にあたって、地域ニュースについての検討は、まだ固まっていない。
16	地域センターの運営について、他の自治体の例を示すといっていたがどうなっているのか。	今回は10か年計画として方向性を示している。具体的なことについては、機会を改めて説明する。
17	地域センターには、常時職員がいて気軽に利用できるように維持してほしい。	(仮称)区民活動センターには職員を配置する考えである。
18	(仮称)区民活動センターへの転換ができるかどうか不安に思う。実現へのステップでは、ステップ2から具体性が見えてこない。もっと具体的な説明がほしい。	(仮称)区民活動センターについては、10年間かけてゆっくり行うものではない。ステップの表現の仕方については検討したい。
19	地域センターを(仮称)区民活動センターへ転換するとあるが、中野の特色ある政策である住区協議会をやめるということか。	住区協議会は中野区の特徴の一つだが、住民自治は地域自治だけではない。西武新宿線沿線まちづくりなど、15の地域センターエリアごとの問題でないものが多く出てきている。また、住区協議会を地域の唯一の合意形成の場として区が位置づけていたことにより、地域の主体的な取り組みに枠組みをはめてしまったきらいがある。4月に自治基本条例が施行したが、新しいしくみの下、新しい住民自治を進めていきたい。
20	住区協議会の活動において、地域の主体的な取り組みに枠組みをはめてしまったきらいがあるとのことだが、わかりやすく説明してほしい。	区が住区協議会の事務局として関わる中で、その活動の枠づけをしてしまっているのではないかとということである。地域の方が行政の考え方にとらわれずに、生活者感覚で考え、行動していくことが大切である。

21	地域センターの姿が変わると、区民と区の信頼関係がなくなるのではないか。	区民参加は計画段階だけではなく、実施にも加わっていただきたい。そのためには、区民と区の信頼関係が大切になる。区民が活動の拠点となるように整備するのが(仮称)区民活動センターへの移行である。
22	(仮称)区民活動センターについての資料がない。現時点でわかる範囲での説明をお願いしたい。南中野地域センターがどうなるのか、非常に関心がある。	(仮称)区民活動センターについては、検討素材NO.5に基づき意見交換会で説明をし、今年5月には部で地域意見交換会を行って説明を行ってきた。みなさんのご意見を参考に検討を重ねているが、職員の引き上げについては慎重に考えることとした。区も一緒に地域の方々と運営に関わり、地域活動が活発になるように支援していきたい。南中野地域センターは、賃貸料が高いことが大きな課題になっている。区全体の施設配置の見直しを検討しているが、その中で示していきたい。
23	地域センターはどうなるのか。	地域センターは(仮称)区民活動センターとして地域団体の活動拠点としていく。地域と区のパイプ役として、職員配置する。窓口業務については代替措置を整えた上で集約を図っていく。
24	町会はこれまで住民に最も近い存在として地域で活動してきた。地域センターが(仮称)区民活動センターに変わる中で、このセンターの運営委員会に携わるのは町会と住区協議会のどちらか。	(仮称)区民活動センターは、住民の意思に基づいた運営が前提となる。公の仕事を委託するため、実体のある組織に担ってもらう必要がある。その中心となるのは、町会や自治会、地区町連と考えている。
25	地域センターは5か所になるのか。東中野はどうなのか。	地域センターの施設は、現在のまま15か所を維持する。集約するのは窓口業務であり、コンビニエンスストアや夜間窓口での対応を進めることを前提に、集約地域を考えていきたい。
26	住民の自主的な活動について、区からの過度な干渉を受けているように感じている。住民の自主性を重視した区民参加についての考えを聞きたい。	住民参加が区政運営の基軸になる。自治基本条例を今年4月に制定し、住民参加の仕組みを明らかにした。計画等を決める時の住民参加だけでなく、自らの地域の問題を自ら解決する自主的な動きも大切である。区民の自主的な活動を推進し支援するしくみとして、「公益活動の推進に関する条例」の検討を進めている。10か年計画を実行していくための欠かせない要素である。

27	自治基本条例により区民参加の仕組みがつけられ、これまでの意見交換会やパブリックコメント手続きをみてきたが、区民が議論できる時間が短いのではないかと。区民意見を真摯に受け止めた行政運営をお願いしたい。	それぞれ個別の案件については、十分な時間をかけて進めてきた。
----	---	--------------------------------

【安全で安心な地域生活の推進】

	質問・意見	回答
1	防災・防犯のことが戦略では示されていない。区としてどう考えているのか。	防災・防犯というまちの安心・安全を確保することは、この10か年計画でも重要なテーマである。戦略では示していないが、素案第3章の第1及び第4領域で記述している。示し方については、計画案をまとめるにあたって工夫していきたい。区としては、家具の転倒防止などの家庭への支援に加え、住宅政策やまちづくりの中で取り組みを進めていく必要がある。町会・自治会の機能を高め、地域のつながりを強めるとともに、地域、区、警察や消防との連携を今まで以上に図っていく。
2	地域防災会についても、支援策を考えて欲しい。	地域防災会の母体は町会・自治会である。町会・自治会活動の推進の支援、地域団体活動の支援の中に地域防災会への支援も含まれており、支援の対象としてきちんと位置づけている。また、防災のための情報提供システムの充実や避難所の機能強化の中でも地域防災会との連携を強化していく。

- 2 「小さな区役所」で、質の高い行政を実現するまち

【区民満足度の高い小さな区役所の実現】

番号	質問・意見	回答
1	保育園の民営化などを進め、職員2,000人体制にするそうだが、区民の命を直接あずかる現場を安い賃金で雇われた人たちにまかせてよいのか。官から民への方向は、本当によい方向であるのか。	職員2,000人体制は、基本的には欠員不補充と事業・業務の見直しによって進めていく。区が直接取り組まなければならないことを見極め、民でできることは民に任せることにより、経費の削減だけでなく、雇用創出にもつながる。

2	PDCAサイクルについて、C(チェック)は行政評価制度にあたると思うが、どういう仕組みで行っているのか。	まず事業の実施主体ごとに目標と成果を計りながら自己評価を行う。その後、外部評価委員会によって、自己評価を含めて第三者評価を行っている。評価結果を次年度に反映させていく仕組みになっている。評価結果については公表している。
3	PDCAサイクルでは、A(改善)の後にREPAIR(訂正・矯正)をつけるべきと以前から指摘しているが。	P(計画)には、10か年計画もあるが、それに基づく毎年の施策や事業も入っている。A(改善)を毎年の施策、事業に反映させていく。その意味で、ご指摘の内容と同じことであると思う。
4	この10か年計画は目標を掲げ、PDCAサイクルを取り入れた計画にしているようだが、従来の中長期計画と違う点は何か。	これまでの計画は、単に事業を並べて経費を積み上げ、財政状況の変化や効果を反映せずに実施してきたため、財政状況が逼迫すると事業が実施できなくなった。10か年計画は、目標を設け、成果を計りながら事業を見直していくことで、目標を実現していく計画である。
5	区は、大きな事業や区内外で多くの人がかかわった事業はもっと前から分析・評価・検証すべきだった。本来手段であるべき事業を目的化してしまっている。	これまでもPDCAに基づく評価を実施しているし、今後もさらに強化したい。これまでの計画が本来手段であるべき事業を目的化していた反省から、今回の計画によって、行政評価を中心とするPDCAサイクルを確立することをめざしたものである。
6	発生主義会計について、なぜプログラム化しないのか。決算処理は早まるか。	企業会計とは違うため、2種類の帳簿が必要となる。プログラム化することで決算処理が早まるということはない。
7	発生主義会計は、民間でいう発生主義会計と同じものか。	基本的には民間と同じようなものを考えているが、行政の資産には道路や公園など他に活用できないものも入ることになり、全く同じとはならないと思う。経営状況を示し判断できるものにしていきたい。
8	施設全体についての廃止転用計画はいつ出るのか。	案の段階で示す。

9	(仮称)総合公共サービスセンターや(仮称)地域子ども家庭支援センター、地域包括支援センター、(仮称)NPO活動センター、(仮称)区民活動センターなど、「センター」が多くてわかりにくい。それぞれ施設をつくるのか。	子ども家庭支援センターは児童福祉法に基づく施設として、地域包括支援センターは改正された介護保険法に基づく施設として位置づけられている。(仮称)総合公共サービスセンターは、廃校後の施設を活用して保健・福祉・子育てに関するサービスを担う場として考えており、ここに(仮称)地域子ども家庭支援センターなども入ってくる。 (仮称)NPO活動支援センターは、公共的活動を支援する場として設置することを考えている。
10	施設の統廃合について、これまで出された区民の意見は、どのようにとりあげられているのか。また、これから検討を進めていくにあたって、住民の意向は今後反映されるのか。	各施設ごとに意見交換会を行い、意見を反映させながら検討を進めている。具体的な施設配置は次の段階で全体像を示していきたい。また計画の検討を進めていく中で今後意見を反映させていく。
11	区民ホール予定地は10年以上も空き地になっている。計画を検討中でも地域に開放したり有効利用をするなど考えるべき。	未利用地については有効利用を行ってきた。なるべく区の財政にプラスになるような利用として民間に貸し付けることも行っている。
12	東中野小学校・昭和小学校が廃校になるというが、跡地の活用方法はどうか。	施設配置全体が見えるように現在調整中である。
13	東ノランドはどのようにするのか。	この土地に地域センター・児童館・保育園を整備する目的であったが、現在は施設全体を見直すなかで、あらためて検討中である。現在、あの場で行われている活動の実績や地域の課題を踏まえて考えていきたい。
14	上鷲宮冒険遊び場は、21億円で区が買っている。どうするつもりなのか。	まだ結論はでていない。

【区民の暮らしを守る体制の整備】

番号	質問・意見	回答
1	子どもの安全に関する情報をインターネットや携帯電話のメールを使って伝達するとあるが、いたずらメールが頻繁にある中で、大丈夫なのか。	地域で情報を共有することは大切である。セキュリティを強化し取り組んでいく。

2	子どもに防犯ブザーを配っているが、一度もブザーの音を聞いたことがない。地域の人にブザーの音を知ってもらわなければ、いざという時に対応できないのではないか。	防犯ブザーは配りっぱなしになっている部分もあり、防犯ブザーを使った地域の安全づくりについても検討していきたい。
---	---	---

【便利で利用しやすい行政サービスの拡充】

番号	質問・意見	回答
1	素案で電子区役所の構築について記してあるが、セキュリティ問題も含め、どう電子区役所を実現させていくのか明らかにしてほしい。	区役所のシステム本体は古くなってきているため、対応が必要と考えている。内部での対応だけでなく、セキュリティを考えたしながら移行を図っていきたい。ただし、この10年間で完全に移行するのは難しいと思われる。
2	窓口の利便性向上が示されているが、地域センター窓口が集約されて、どうして利便性が向上するのか。窓口でおこなっているのは、住民票などの手続きだけではないはずだ。	いわゆるコミュニティの場としての機能がどうなるかというご心配であると思う。手続きに関する業務に地域センターが侵食されてきていると感じていることもあり、窓口業務とコミュニティ行政に関わる業務を分けて考え、前者については、集約化するべきとしている。もちろん手続きについても、代替手段を講じ、サービスの低下とならないよう努めていく。後者については、職員を引き続き配置する予定である。
3	地域センター窓口の集約については、ステップ3以降がないのはどうしてか。	ステップ2の段階で一斉に集約した方がよいと考えているためである。
4	地域センターの窓口集約で、ステップ1で集約準備、ステップ2で集約化となっているが、その過程で区民の意見をどこまで聞いてくれるのか。	ステップ2で夜間窓口の拡充とコンビニエンスストア等の活用とあるが、これは実際はステップ1の取り組みと考えている。この充実を図るとともに、一方で事務の効率化、職員の削減も必要であり、区民の意見を参考に検討していく。
5	地域センターの窓口を縮小することは仕方がないと思うが、集約にあたっては、何キロ圏内に1か所というような単純にキロ数ではなく、バスの便などの交通の利便性も考慮して欲しい。	(意見)
6	夜間窓口サービスを拡充すると、逆に手数料が上がってしまい、結果として区民にとっては迷惑に感じるようになっていくと思う。	夜間窓口については、一定の利用がある。夜間サービスの手数料は昼間の負担と変わらない。郵送による申請については今回手数料を値上げした。宅配サービスなどを仮に行うとすれば料金設定は変わるかもしれない。

持続可能な行財政運営のために

【行政革新】

番号	質問・意見	回答
1	複数年型予算の導入とあるが、今までとどう違うのか。どういうものなのか説明してほしい。	複数年かけないと効果がわからない事業や多額の投資を必要とする事業など柔軟な取り組みを可能とするため、事業を実施していく上での予算の考え方として取り入れていく。単年度予算は法律で定められているので、それは変わらない。
2	行政革新の中に民間との競争の導入とあるが、具体的には何か。	市場化テストを行い、民間で実施する場合のコストと職員で実施するコストを比べて、事務の民間委託を判断していくことを考えている。
3	地域センターの窓口集約など、厳しい財政状況のしわ寄せが区民生活に来たという印象を受ける。そうする以前に行政がすべきことがある。経費について情報公開を行い、透明性を高めるべきだ。削減すべきところをはっきり区民に訴えていく姿勢が必要。	第2章の「行政革新」で、行政がやらなければならないことを示している。市場化テストの導入による効果的・効率的な行政活動の展開もそのひとつである。民間活力や住民の力を活用して、職員数の削減などをすすめ、行財政の立て直しを図っていきたい。
4	職員の出退勤の不正打刻など、コンプライアンスの点で不信感を持っている。	法令遵守が一層大事であると認識している。組織のルールだけでなく、社会一般の規範を守っていく意識を強く持つ必要があると思っている。
5	職員の意識については変わってきたと実感している。一方、意見交換会の場の区民参加が少ないことに危機感を覚える。区民の意識をどう変えていくかを考えてもらいたい。	区民の意識を変えていくことは必要だと感じている。実際には区民が変わったことの実績を示していくことが大切である。
6	職員の意識がなかなか変わらないことに関して、区長としてどのように考えているのか。	区民と正面から向き合って、区民にとって、よりよい暮らしとは何かということを常に考え、仕事をしていく必要があることを折にふれ話している。おもてなし運動を通じて、職員自らが区民にとってよりよいことは何なのかを考えて仕事をするよう、意識改革に努めていく。また、接客6つの約束と朝礼の実施をまず行うようにしてきたが、徹底するようにしていきたい。

7	4つの戦略は、部の区分に対応していないが、セクショナリズムによる弊害はないのか。	組織と戦略の区分は必ずしも一致していない。組織は、仕事をしていくために一番やりやすい目標体系の形にしている。それぞれの目標を達成していくことで戦略も実現できると考えるが、そのためには総務や区長室などスタッフ部門による調整など、強固なバックアップも欠かせない。
8	職員の能力主義は、良い面もあると思うが、上司の顔色を伺ういわゆる“ヒラメ職員”ばかりができてしまうのではないか。	上司の顔色を伺う職員ができてしまうのは、上司が悪いという前提があつてのこと。上司が良ければ、そういうことにはならない。上司の評価が大事。現在も幹部職員の評価を行い、結果を給料に反映させている。幹部職員同士や部下からの評価のしくみも検討していきたい。
9	幹部職員の評価の方が大事。区民参加のかたちで評価できるしくみをつくるべきだ。	区民評価は、難しいと思う。区民から信託を受けている区長が評価することも間接的な区民参加による評価である。また、幹部職員は、政策の運営責任者として、外部評価委員による行政評価で事業成果を測られる。監査委員による監査や議会でもその結果を問われることになる。直接的な評価方法ではないが、現在のしくみの中で色々なかたちで区民による評価がなされていると思う。

【行財政運営の基本的考え方】

番号	質問・意見	回答
1	都が銀行をつくったが、区も資金運用などを真剣に考えてほしい。	国がお金を出さない中で、区の経営をしていくには、資金運用が必要になってくると認識している。研究・検討していきたい。
2	財政的に見通しのある計画なのか。	今回の計画では、歳入をきちんと押さえたい。その上で歳出を考える。限られた歳入の中でやりくりをしながら、日常の仕事を常に見直し、効果の低いものなどをやめ、新しい取り組みを進めていく。
3	10か年計画は、財政の裏づけのある実現可能な計画ではなかったか。年度割して10年分がないと、10か年計画とはいえないのではないか。検討素材NO.5でも、前半と後半に分けて事業を示すとしていたはずだ。	検討素材NO.5で前期・後期に分けて示すとしていたが、検討段階で、将来の財政状況の変化によって年次計画を変更せざるを得ない形にならないよう、計画の作り方を抜本的に見直し、目標と成果の関係を示すほうがよいと考えた。また、わかりやすくするため、今回はステップごとの取り組みを示している。
4	参考資料により具体的にわかってきたが、財政的な不安を感じる。ほとんどの事業がステップ1に集中しているが厳しい財政状況の中で可能なのか。重点的に取り組む必要があると思う。	ステップは、事業の重点化を考慮した上で構成している。各戦略のステップ1では全体として少ない予算で対応できる事業が殆どである。10か年のうち3年間については財政基盤を安定化させることを重視し、基金積み立てを行い、その後新規事業に投資できるように計画している。新しい事業を行うにあたっては増える経費を予測して、既存事業を見直し、それに対応する経費を減らしていくという考えである。
5	計画の財政的な裏づけが見えてこない。	この素案では、経費的なものは記していない。今までの計画は新規・拡充事業を積み上げた作り方をしており、社会状況が変化すると2年ほどで使えなくなった。右肩上がりの時代ではないので、今回の計画は、歳入の着実な見込みをもとに、歳出をやりくりし、全体の財政規模や新しい事業の規模を示したい。
6	この10か年計画の財政的な基礎はどうなっているのか。	現在精査を行っている状況である。特に歳入については国からの税源移譲や都区財調制度の見直しが不明であり、積み上げが難しい。具体的に数字については今後示していく。

7	No.4では行財政運営の考え方の中にさまざまな表や数値が入っていた。なぜなくなってしまったのか。	案のときには入れたい。
8	職員の退職や施設修繕のための基金は積み立てないのか。まちづくりなども合わせ、全体でいくらのお金が必要なのか。	持続可能な財政のため、基金の積み立てが必要と考える。10月末には計画案をまとめるが、それまでに基金の積み立て計画を作りたい。
9	職員給与を30%削減するくらいのことを書いてほしい。	(意見)
10	特殊勤務手当は、社会情勢からしても廃止すべきではないか。検討状況はどうなっているのか。	特殊勤務手当については、行財政5か年計画の中で削減の方向を打ち出して、他の自治体に先駆けて取り組んできた。現在、大幅な削減に向け検討を進めている。

【素案全体ほか】

番号	質問・意見	回答
1	10か年計画では、具体的な事業内容等が示されると思っていた。当初からこのような形のものを想定していたのか。	計画の考え方そのものはこの方向であったが、出来上がりの形を想定して検討してきたわけではない。検討の結果としてこのような形になったものである。
2	素案では、何をすることが見えない。平成4年に策定した長期計画「2001年中野」のように具体的な記述がないとわからない。	「2001年中野」では、事業量を示し、前期5年、後期5年で何をするという描き方をした。また、ハード面重視でもあった。その結果、社会情勢の変化等により、計画策定後数年で見通しが立たなくなってしまった。わかりやすいかもしれないが、今の時代にその計画の作り方では、責任あるものができない。方向づけが大事。また、施設についても、こういった機能を果たすものなのかをまず考える必要がある。これらを踏まえ、目標を掲げて成果を出すことをめざした描き方とした。国の区市町村に対する姿勢も成果主義で裁量にまかせる方向に変わってきている。
3	中野のまちが10年後にこうなっているということが全然見えてこない。これまで中野が優れていたことが、すべて他区並にされてしまう。中野の特色として、他に誇れることがあっても良いのではないか。	(意見)
4	素案では、施策や事業の優先順位がわからない。	他の意見交換会でもご指摘いただいた。計画案作成に向けての検討課題とした。

5	事業については細かいスケジュールを示すべきだ。	10か年計画は戦略と目標を示すもので、個々の事業スケジュールは示さない考えである。ただ、事業を担う部は個別にステップを考えていく。
6	すべてを網羅するものをつくるのは大変だったと思うが、具体性がない。	ステップについては、かなり具体的になっている。本案ではステップを盛り込んでいく。
7	この計画は、将来区長が変われば、なくなってしまうのか。	そのときの社会状況や区長の判断による。
8	第3章は基本構想の4つの領域に基づいて描かれているが、第2章の戦略は4つの領域とは違う分け方で構成されており、わかりにくい。第2章と第3章の順番は逆ではないか。	計画の構成だが、第3章は基本構想と整合させ領域ごとに描いている。第2章の4つの戦略は領域にとらわれず重点的に区として取り組む戦略、第3章で描く全体像をも牽引するものとして考えている。ここでは目標としての指標も盛り込んでいる。
9	目標と戦略を明確にする計画だが、目標はどこに書かれているのか。	第3章の中で、指標ごとに目標値を設定している。
10	「新しい中野をつくる10か年計画」という名称は、区民にとってわかりにくい。名称は大事なので、区民に具体的にわかるようなネーミングにすべきである。	名称は、大切であると考えている。素案意見交換会を含め、区民からいい提案があれば取り入れていきたい。
11	素案についてのきちんとした資料をいただき感謝している。第2章で各戦略ごとに付けられたキャッチフレーズが親しみやすい。キャッチフレーズごとにマスコットやアイコンがあるとさらにいいと思う。	今後検討したい。
12	戦略という表現は、計画に合わない。素案にはカタカナ語も多すぎる。	(意見)
13	素案の中の成果指標に、小数点以下の数字を表示したものがあがるが、小数点以下は統一して示さないようにすべき。また、表については番号をつける、内容を図解するなどの工夫をしてわかりやすくしてほしい。	計画をわかりやすくする工夫をしていきたい。

14	第3章で、成果指標の実績や目標値が空欄のものがある。現状を踏まえてこそ、効果ある計画が立てられるのだから、現状が分からないものを指標として挙げるのはおかしいのではないか。	現状を十分認識し、その上にとって事業を計画することは当然である。現状を踏まえ、それぞれの課題の成果指標を立てているが、一部調査中の指標については、9月中に具体的な現状の数値を把握できる予定である。
15	「実現可能性がある」というが、まちづくりについて書いてあることを見ても、とても10年ですべてはできないはず。本当に実行できるのか。	区としてまとめる計画であり、区全体で責任をもって実現をめざすものである。通常の計画に見られるような事業の年次計画ではなく、仕事の成果を見ながら次の展開を考えていけるよう、「ステップ」の形で将来像実現のための道筋を示している。場合によっては、取り組みの成果をみて事業の予定を遅らせたり、早めたりすることもある。
16	ステップ1～4と示されているが、10か年計画ではステップ4が取り組みの完成と考えてよいのか。	基本構想の10年後の姿を実現するものが10か年計画であり、10年経ったら10年後の姿が実現しているというものである。基本構想は将来像も示しており、ステップ4で終わるものも終わらないものもある。
17	ステップ1には、現在行われているものも入っているのか。	現在取り組んでいるものも入っている。
18	ステップごとに財政的な裏づけも説明してもらわないと理解できない。部ごとの経費についても聞きたい。	事業ごとの経費を計画で示すことは考えていない。部ごとの経費も同様である。
19	「実現へのステップ」の戦略1に「推進」という表現が複数あるが、これは事業化なのか、計画の検討なのか。	わかりにくい表現なのはおわびしたい。各項目を個別にご覧いただくと、わかりいただけるのではと思う。
20	参考資料の「実現へのステップ」は、4つのステップが記されている。区長の任期は来年の6月までであるから、次の区長がやることも書かれている。区長選挙の公約であるのか。公約として掲げるべきではないか。	郵政民営化や年金制度の見直しの議論でもわかるように、任期にかかわらず、将来展望のある計画や政策をつくることは、政治家の責務である。任期中の責務として、10か年計画を策定していく。
21	基本構想制定以降、素案ができるまでの検討はどのようなプロセスだったのか。	検討素材NO.5までにいただいたご意見をもとに、庁内で検討を進め、素案にまとめた。素案についてみなさんのご意見をいただき、その後案にまとめて、パブリック・コメント手続を実施する予定である。

22	基本構想や10か年計画に長い期間かけすぎた印象をもつ。	時間がかかりすぎたように感じるが、行政やワークショップ等に丸投げでなく、各段階で区民の参加と理解を得ながら進めていくためある程度の時間必要である。
23	計画が17年度から始まるのに、何をもとに17年度予算をつくったのか。	17年度予算は、行財政改革を推進していくという路線をベースに、基本構想や10か年計画の議論をもとに、緊急に対応すべきものを先取りして組み立てた。10か年計画は17年度からの計画であり、年度がずれ込んだ策定作業になっているのは確かである。
24	都の団塊の世代を対象とする調査結果なども参考にしながら、人口の動向や地域の変化をきちんと把握すべきである。	基礎的なデータを把握して政策をつくっていくため、政策の科学的研究に取り組む考えである。
25	事業の実施にあたっては、いかに投資効果を上げるかが重要である。投資効果の経済計算要領を作り事業の効果を計るべきである。	事業効果については、第2章の行政革新の元となる考え方である。区職員全員でこの考え方にに基づき各事業に取り組んでいく。
26	今10か年計画を作るのは、警察大学校跡地利用のため必要があるからなのではないか。	行き詰った中野の立て直しを区民とともにやっていくために、新しい基本構想から作り直した。10年間で何をするのか区民との共通の目標として10か年計画を策定するものである。
27	今の計画では「中野の顔」、「中野らしさ」が見えてこない。中野は、若者と高齢者が多いまちである。また、地域ごとに特性があり、こういう状況に応じた施策を織り込むべきである。そのためには区が作戦本部を持つなどして実践していかなくてはならないのではないか。	今ある中野の顔をどう打ち出すかとともに、今後どういう顔を作っていくか2つの課題がある。今ある顔としては、若い人が持つ文化芸術のエネルギーをまち全体で受け入れている中野らしさがある。この中野らしさをまち活性化戦略の中で取り組んでいきたい。また産業や文化・芸術を結びつけることや、警察大学校跡地地区の整備などにより、にぎわいと魅力のある中野の顔を作り出していく。
28	10か年計画の実現は、おもてなし運動の成否にかかっていると感じている。しかし、おもてなし運動の状況等についてはあまり公開されていない。公開について検討してもらいたい。おもてなし運動については、計画の中で、指標を作り成果を計っていくべきである。そして職員の意識改善につなげる必要がある。	おもてなし運動については、第2章の行政革新の元になるものと考えている。計画中でおもてなし運動について明確に表現できるかどうかは検討したい。また、これまで区民に公開するまで運動の成熟していないこともあり、公開していないなかつた。後は公開についても検討していきたい。

29	今の社会情勢の中で、10年先を見据えるのは非常に難しい。前期5年で見直すのであれば、5か年計画にして確実な計画にしたらどうか。	従来の計画のように何年に何の事業をどのくらいかけて行うという計画では、財政状況等の変化で計画どおりに実施できなくなり、計画そのものが失敗になり意味を成さなくなる。計画の作り方自体の考え方を改め、めざす姿をステップごとに並べ、実現性を高めている。
30	10か年計画では長すぎるのではないか。	行政には長いスパンで考えていくことも必要。社会状況にあわせるため、5年後に見直す。
31	基本構想の区民ワークショップでは、計画は2年おきに見直し・修正するという意見を出したが、この計画はそうっていない。	ステップの1～3の期間は概ね2年間と考えており、ステップごとに成果を検証しながら進めていく。
32	意見交換会も最初の頃は、参加者が多かった。質問したときに、誠意なしに回答することがあった。わからないものについては、詳しく調べて回答するという態度であるべきだ。そういう姿勢がないから、参加者が減っている。	即答できないときには、調べて対応するというのが誠意ある対応であると思う。ご指摘はしっかりと受け止めたい。
33	計画の中で区民参加が見え隠れして、わかりにくい。区民に何をしてほしいのかステップで示したらどうか。また、意見交換会の人々の集め方や説明の仕方も工夫して、区民との垣根を取り払う工夫が必要である。	意見交換会の周知や説明方法については、他の自治体での事例を参考に研究したい。
34	当意見交換会の出席者が少ないが、何故か。また、他の会場での状況はどうだったのか。	参加者が少ないことは、残念に思っている。できるだけ、多くの方の参加を呼びかけていく必要がある。今後は、周知の仕方を工夫するなどしていきたい。出席者が、この会場より少ない所もあったが、10か年計画素案という内容を難しいと考えている区民も多いのではないかと考えている。
35	この意見交換会の参加者が少ないのは、行政にも責任があるのではないか。区長は意見を聴く姿勢がなく、反対や弁明ばかりで、何も聞いてもらえない、何も変えようとしなないという声をよく聞く。	参加者が少ないことは遺憾であり、努力も足りないと思っている。出された意見は十分受け止めるが、言われたことについて、自分の考えをはっきり言うことが対話の基本と考えている。
36	意見交換会の出席者名簿を作成したらどうか。次回の意見交換会等の案内を送付することで、参加者も増えていくと思う。	(要望)
37	区民意見交換会の意見は反映されるのか。	いただいた意見を検討して、10月に計画案を作り、その後パブリックコメントにかける。意見はしっかりと受け止めていく。

38	10か年計画は、10年間の区政の方向を決めるということ。意見交換会の期間が短すぎる。決められたスケジュールどおり進めるのではなく、時間をかけて議論すべきだ。	時間をかけて議論すべきだと考えている。昨年から基本構想の議論とあわせて、みなさんにご意見をいただきながら、進めてきた。一方で行政として、ものごとを一定の期間内で決め、行うことが必要かつ責任である。意見交換会の期間・回数は概ね妥当だと考えているが、こういったご意見があったということは、受け止めたい。
39	説明する際は、具体的なことを例示してほしい。全体を概括されても、難しくわからない。	計画全体をご説明させていただいた。地域に特有の具体的な取り組みなどもご紹介していきたい。
40	区報の臨時号がわかりづらい。区報の見出しに「第1章」「第2章」が表示されていない。句読点がない。高齢者にもわかりやすい書き方にして欲しい。	限られた紙面の中で、少しでも詳しく伝えたいという思いが、わかりにくさにつながっているのではないかと思う。理解しやすいものとなるよう努力していきたい。
41	各資料について、変更点や内容を凝縮したダイジェスト版を作ったらどうか。	素案の第2章は、4つの戦略として、この10年間で優先して取り組むものを絞り込んで示している。この第2章がダイジェスト版ともいえる。今後、ダイジェスト版の作成については検討したい。
42	私の町会は、1,500世帯あるが、そのうち500世帯が単身世帯である。区として少子高齢化問題の対応策を考えているのか。	基本構想を改定し、10か年計画を策定する根本の理由に、少子高齢化の問題がある。このままではやっていけないとの認識から、区全体の組み立てを変えることを進めてきた。素案においては、第2章の戦略3でこどもについて、戦略4で高齢者について記している。地域と家庭を中心にした子育てと高齢者の健康づくりに力を入れてやっていきたい。
43	福島県矢祭町の町会活動がテレビで紹介されていた。町の合併問題をめぐり、自治体と住民とが協働した関係が描かれていたが、区長の感想を聞きたい。	住民と行政とが協働して自分たちのまちを守る姿勢はすばらしく思う。中野のように町会への加入が半数しかない状況で全住民一丸となった取り組みは難しいが、地域単位でそうしたまちづくりが行われていくことが始められたらいいと感じた。